

No. 1	平成 27 年 7 月 27 日
廃棄物減量等推進審議会	

廃棄物減量等推進審議会会議 会議結果

会議名	第6回木津川市廃棄物減量等推進審議会		
日 時	平成 27 年 5 月 18 日 (月) 午後 1 時から	場 所	木津川市役所 5 階 全員協議会室
出席者	委 員 ■…出席 □…欠席	■郡薦委員(会長)、□浅利委員(副会長)、 ■石崎委員、■宗形委員、□山田委員、□伊原委員、■木村委員、 ■大久保委員、■立花委員、■水野委員、■中島委員、■新井委員、 □石田委員、■近原委員、■福島委員、□森 委員、■山本委員	
	その他の出席者	傍聴人:なし	
	庶 務	生活環境部 岩木部長、金森次長 まち美化推進課 竹田主幹、秋元係長、田中主事 クリーンセンター建設推進室 山本室長	
議題	1	開 会	
	2	会長あいさつ	
	3	議 事 (1) 第5回廃棄物減量等推進審議会会議結果について (2) 審議事項 ① 2R (Reduce・Reuse) 関連施策の充実について ② 更なる減量化を目指し有料化の導入を含めた検討について	
	4	そ の 他 (1) 次回審議会の開催日程について 平成 27 年 7 月 27 日 (月) 午後 1 時 30 分から 木津川市役所	
	5	閉 会	

会議経過	事務局 (進行)	事務局挨拶省略 (大久保委員紹介) (事務局紹介) (資料確認) (会議の有効成立報告)	
		皆さん、こんにちは。前回までいわゆる2Rを中心とした減量化、効果ある施策についてご議論を頂きました。今回それをもう一度最終的な確認と申しますか、まとめとして一つ切りのいいところで第一回目の市長に対する提出として、これまでこういう議論をしてこういう形でまとまっています。この中で前回の議論を振り返ってみると、一つはいわゆる情報を市民に共有化してもらう為にどういう情報の発信の仕方が望ましいのか。それから二つ目に、これから重要となってきます地域創生の流れの中でごみの問題も人づくり、地域づくり、或いは組織づくりという形の中で重要性を持ってきているということ。特にコミュニティそのものを如何に活性するかということとごみの減量化をどう繋げていくのか。個人的な問題から一つ社会的、あるいは地域への問題への発展を見るべきではないかということ。それから発生源でのごみの減量化の取組みが重要であると。そういうことを柱にしながら皆さん方にご議論いただきましたので、それについてもう一度確認をさせていただきたいと思っております。	
		それでですね、今までの施策はどちらかと言うとあまり財源を必要とするものではない、あるいは場合によっては財源を必要とするものも、皆さん方からもご提案をいただいているように、その為にもその財源の確保として、またそれ自体として、ごみの減量化に有力な手段として有料化の問題がございます。それについても議論して欲しいと市長からのいわば諮問でございますので、それについて今後じっくりと皆さん方と議論をさせていただきたいと思っております。そういう意味で今回が一つの区切りで、二回目の「有料化をどう考えるか」ということについての議論をして、そしてこの審議会で任期のことなどございますけども、それを踏まえて何とか今の委員の皆様方の構成の中で提案をというか、諮問の報告を市長の方にさせていただきたいと思いますので、引き続きよろしくお願ひをしたいと思います。	
		それからもう一つ、審議会の運営内規の中にございます第5条では議長とそれから委員の中から今回の第6回審議会の会議録の署名をする委員を指名しなくてはいけないというのがございます。就任早々で申し訳ないのですが、基本的に名簿の順という形で指名をさせていただいておりますので、今回、大久保委員の方に指名をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひをしたいと思います。	
議事の進行と、その後の会議録の作成がなされますので、それを最終的には皆様方のご了解を得た上で会議録が出てきますので、もう一度中身を確認していただいて署名をしていただくという形の手続になりますので、これはどうしても先ほどの情報発信という一つの市民に対する情報の公開でございますので、よろしくお願ひしたいと思います。			
もう一つ、先ほどありましたように資料確認がなされましたけれども、今回の資料、全てこれは公開させていただいてよろしゅうございますでしょうか。			
委員会長 はい。異議なし。			
会長 はい、ありがとうございます。それでは公開とさせていただきたいと思います。			
会長 今回は議事として、第5回の前回の廃棄物減量等推進会議審議会会議結果に			

		<p>についての確認をお願いしたいと思います。それからその後、審議事項のほうに入らせていただきます。</p> <p>それでは事務局の方から前回の審議会の会議結果の要旨の確認につきまして資料1と2に基づいて、ご説明をお願いします。</p>
事務局		<p>事務局説明省略 (第5回廃棄物減量等推進審議会会議結果について)</p>
会長		<p>これにつきましては、それぞれの皆様方の発言に修正点がございましたら、次回審議会までに事務局の方に申し出をしていただけたらと思います。</p> <p>段々と中々ご意見が活発になってきてるのか、議事録も少しずつ分厚くなってきたように思いますけども、今回もそういう面からいうと、忌憚のないご意見を沢山いただければと思っております。それでは、これにつきましては確認等、それとも皆さんからもし修正点がございましたら、事務局へ申し出ていただくということで、終わらさせていただきたいと思います。</p> <p>それでは、審議事項の方に入らせていただきます。今回の審議事項は二つのことで、先ほど申し上げましたように一つは今まで議論をしてきた2Rの施策についてのもののまとめといいますか、それを実際にやっていく上における関連施策の充実についてもう一度議論しまして、先ほど申しましたように、これを一回目のその位置という形でのまとめにしていただきたいと思います。</p> <p>それから二つ目は更に展開する為の有料化の議論を今回から始めさせていただくということになります。それでは2の方の中にはあります、2の1の「2R関連施策の充実について」ということで、事務局から指導説明をお願いしたいと思います。</p>
事務局		<p>事務局説明省略 (No.3 : 2R (Reduce・Reuse) 関連施策の充実について)</p>
会長		<p>ありがとうございます。今の報告に対しまして、更なるご意見及びご質問等ございましたら、お願いしたいと思います。</p>
委員		<p>皆さんに今質問で共有するということで、ちょっと私も分からぬ点がありますので、ちょちょっと丸してみました。情報発信ツールの有効活用ということで、防災行政無線ですね、街路灯につきましては各旧町であるかも知れませんが、戸別ラジオにつきましては多分山城町地域だけだと思うのですけども、また伺っていますと残念ながら山城町の防災放送・ラジオに付きましても27年度・28年度については行き先分からぬということを言われていますので、そういうことも含めて、やはり行政無線というのは環境について非常に良いと思うのですが、その辺のことを説明お願いします。</p> <p>それからリユースの関係ですね。意識啓発の関係は分かりましたけれども、イベントの関係でリユース食器の再使用ということで、私も色々視察をさせていただいて、リユースよりも分別の方がいい面もありますので、その辺、先進地というか、リユース食器もお金が高くつくということでその辺の手間とか、昨年は祇園祭りの方でこの推進員さんも参加されたと聞いておりますけど、その辺の長短を知っておられたら、報告をお願いします。</p> <p>それから、ページ戻りましてすみません、最初の一番下ですけれども、施策2-3ということで学校用品のリユース推進事業、これはどういうことかちょっと分かりませんのでよろしくお願ひいたします。</p> <p>それと、布オムツのレンタルサービスということで最後ですけども、これも今日初めて聞いたのですが、近隣でそういう実例があるのか、その辺もちょっと報告願いたいと思います。以上です。</p>

	会 長	今の質問等に対して事務局からいただいて。あと〇〇さん、もしも経験の中からお話をいただけたことがありましたら、よろしくお願ひいたします。
	事 務 局	<p>それでは4点ご質問をいただきましたので、一点目は情報発信ツールで防災行政無線のことだと思います。現在、木津川市内では山城地域だけが防災行政無線を戸別も含めて、今そういった情報伝達の方法があるわけあります。まず一つは、そういう方法があるということ。今現在は山城地域に関してはそれが出来るということでありますけれども、現在、木津川市においては防災行政無線全域の計画があつて、具体的に進めているところです。ただそれが戸別ではなくて同報系の防災行政無線だという風に示しているわけなんですけれども、例えば、同報系だけなのか、具体的には詳細をまだ把握をできておりませんが、防災行政無線が市内全域に整備されるという計画がございますので、その中にこういった行政情報の発信ができるのかどうなのかということはまだ未確定ですが、これについてはまだ可能性として今は考えております。ただ今、山城地域での戸別に丁寧に聞きやすい形で入っていくようなものになるかどうかはちょっと不透明のところがありますが、整備を行うということあります。</p> <p>リユースですね。イベントの関係でリサイクルの目的的なことも含めて、リサイクルで良いのではないかということをご質問されたのかなと思いますが、具体的に入って私もこのリユースの方と実際協議したわけじゃないんですけど、コストの問題点はどうしても出てくるんです。ただ聞いておりますと、例えば、使い捨ての容器を出すような食品を売る店舗にリユースできる容器の貸出をして、それをまた回収をして再使用していくというようなことを制度として一般的に考えております。また中々、100枚出しても100枚返ってくるという確信がないので、段々その中ではデポジット制度を導入するとか、そういう取組みの工夫は色々ありますけれども、大体そういった先進例を聞いていますと、9割方は返ってくるということあります。そういうことで、行政側から言うとこういった容器のレンタルを受けて、そのレンタルをイベントに使っていく。そういう形など、今現在は考えているところです。これは色々なことがあるのかも知れないので、これはまだまだ勉強していこうと考えております。</p> <p>そして学校用品のリユース事業ということで。これは例えば、学校用品で理科の実験器具あるいは机・椅子を含めてですけれども、学校のいわゆる備品ですね。色々な形で不要になることがあります。例えば、古くなったということもあるでしょうし、また、ある意味では学校の生徒が少なくなったので、不要の備品が出てきたということもあると思います。そういう場合に例えば、教育施設内での再利用というのもありますし、あるいは場合によっては、まだ今は思いませんけれども、一般的なレンタル事業と言いますか、あるいは支給事業と言いますか、そういったところは手段としては確定したものはありますけれども、そういうことをやっていこうという協議を今しかけているところであります。具体的にまだどうこう決まったわけではありませんが、これはまたもったいないプランができてからの課題ということで前回や去年も報告させていただきましたが、これはまだ評価ということで二重丸はいただけるところがある中、まだ三角なのかなと思います。</p> <p>布オムツですね。これもなぜ布オムツを出したかと言いますと、まず組成分布の中でごみの減量化を考えた時に何を視点に置くといいのかなというところで、実際に改めて組成分布の中身をもう一度読み直してみると紙は35%ということで、市民の皆様方には古紙の分別をお願いしますよということをよろしくお願ひしているところでございます。けれども、実際中身としては紙オムツが増えているというようなところがあつて、これを減らすにはどうしたら</p>

		<p>いいんだろう。分別していただきても結局燃やす所に行くわけなので、そうすると紙オムツを減らすには紙オムツを使わない方法はないかということが一点。紙おむつを使わない方法というのは、やはり昔ながらのオムツというのは布オムツだったのだろうなど。昔の紙オムツは高かったものですから、私たちの時代は布オムツを積極的に使うようなこともあったのですけど、最近安くなつて非常に便利になつたので。便利さというのは何より優先されるのかも知れませんけれども、やはりこういったところから考えると、一つにはそういったレンタルサービスをされている所があつて、費用対効果という面から言うと、決して高くはないというように聞いています。また、これは使って布オムツを洗って返すのではなくて、使ってそのままどこかの容器に入れておくと、納品時に引き上げていただくとそういうサービスもあるようになりますので、そういった良し悪しというのも、これも市には健康推進課といつて子供さんを健康指導する所があるわけですが、例えば子供さんに紙オムツや布オムツってこんな良いところがありますよというナメリットみたいなものを説明するような材料があるんですか。もしもあるんやつたら、教えてということでお願いしているのですが、教えていただけないということは、もしかしてないのかも知れませんが。そういうことも含めて、序内で考えてみたいと思っております。以上です。</p>
会 長		今のに追加的なあれがありましたら。
事 務 局		<p>学校用品リユース事業なんですけども、ちょっと説明させてもらいますと、この学校用品リユース事業につきましては、前回もつたないプランを検討する際に委員の方から出された案です。これは今、説明があったこと以外に、よく小学校ですと、小さなお道具箱とかですね、その機会・その学年だけしか使わないような物があつて、それを使い回しすれば1年間使ってほかすということではなく、次の世代に引き継いでいけるのではないかということで、親御さんたちがお買いになられた物を次の子供さん達に引き継いでいくことによって、リユースできないだらうかという趣旨もあって出させてもらっているもので、学校の中の備品も当然ありますけれども、保護者の方が準備された物を次世代まで利用していくということも含まれていますけれども、中々それを現実的に次の世代に引き継いでいくというところまでの調整が出来ていないというところですけれども、そういうことで意見を聞かせていただいている状況であります。</p>
委 員		<p>どうもありがとうございました。まずはごみ減量につきまして学校用品のリユース、それから福祉の分野におきましてもそういうところに目を開いていただいているということでごみを減らす、環境を良くするということであれば、環境だけの分野ではありませんのでね、その辺に視点を絞っていただいているということで、良いと思います。学校のエコスクールにつきましても、前回も言っていますように生ごみなんかを燃えるごみに出すのがまだあるみたいなんで、この食品ロス削減の分ですけれども城山台小学校だけではなく、今年からでも学校で堆肥化するとか、その辺をもっと踏み込んでやっていただきたいと思います。</p> <p>それからもう一つですけれども、先ほどの質問の一つということで、まずイベントでのリユースですね。これにつきましては委員の方からも祇園祭とかに参加された方がありますので、その辺ちょっと役所だけ違ごて、市民にもそういうようなノウハウ、ノウハウだけ違ごて長所短所ですか、その辺も公開していただいて、この辺に問題があるのやなということを皆で勉強できるような形で以後還元していただきたいと思います。よろしくお願ひ致します。</p>

	会長	<p>ありがとうございます。今、仰ったようにヨーロッパでは政策統合という言葉をするのですが、今まで我々はごみの問題はごみだけで考えてきたのですが、いわゆる教育、あるいは高齢化とかそういうことを含めた福祉、そういうものと政策統合をして次第に、単にごみの問題として考えるのではなくてという形の施策というのは非常にまちづくりには重要な視点でありますので、それを進めていただけたらという気がします。</p> <p>そしたら〇〇さん、もしもありましたら。</p>
	委員	<p>昨年度の祇園祭にリユース食器で全部、出店のものをにするんだということをボランティアを募集されてたので行ってきました。全部という風に最初は話をされてたのですけど、中々それはあの規模ですので上手いこといかず一部の出店の協力されるところだけの活動になったんです。貸されたものは大体返ってきたように伺ってますし、参加者の人たちもすごく協力的に「どこで回収してるの?」っていう風に聞いておられたので、そういう食器を受け取った方はすごく関心を持ってられてましたし、同じくボランティアで同じブースになった人が実は静岡からわざわざこの為だけに来ましたという方もおりまして、そういう啓発という意味ですごく役に立つ機会になるんじゃないかなという利点があると思います。</p> <p>問題点として感じたのは、あの祇園祭、暑い中で水分はどうしても余った分を「溝の方で良いです、沢山あるので流してください。」という事だったので、流させてもらってたので、溝からちょっと臭いがきつい。要するに残飯ですね、残飯の処理がちょっと問題になったなという風に感じました。</p> <p>それと、祇園祭はそれなんですけど、祇園祭とはまた別に私たち、3月に木津川市の別のグループの人たちとイベントをした時に、京都市内のリユース食器を扱っている所からリユース食器を借りてイベントをしました。その時、確かにコストはかかるのですけれども、こっちで洗わなくても、そのまま梱包して返して良いですよというものもありますので、その規模によっては、そういう風にコストはかかるけれども楽をしながらするということもありますし、こっちで洗って返すということもできますし、選択肢も増えてきていますので、色々な形でチャレンジしていくと整理していくものではないかなと、私は感じています。以上です。</p>
	会長	<p>ありがとうございます。</p> <p>リユース食器はですね、基本的にこれが最初に全国的な注目を受けたのは、Jリーグですね。サッカーのスタジアムの中で出たものは初めから、言い換えるとワールドカップなんかではごみを拾おうという形のサポーターがいるということで世界的にもなった訳ですけども。元々はJリーグのサッカー、特にヴァンフォーレ甲府ですね。山梨の市会議員の女性の方が最初に始められまして、それをはくばくというヴァンフォーレ甲府を支援している企業が全面的に協力をしてという形で最初は始まったんですね。ところがなかなかそこ一軒だと、そこまで送ってあれするのは非常にかかるということで、次第に全国でもサッカー場から始まったものが地域の中で、小さな規模のものは結構あったのですが、去年みたいに祇園祭みたいな大きなところでは初めてなんですね。これもずっとそれを熱心にやっていたエコトーンの太田さんという方と、それから委員長には事業組合の新川さんがなられたと思いますけども、そこで新川さんがごみが出たら協力するよということでやられて、かなり全国的にも注目を浴びたという形になると思います。</p> <p>太田さんというのは、彼はもう一つ小さなコミュニティ・ラジオ、ラジオ・カフェというのが三条通のところ、寺町の近くにありますけれども、その中で、先ほどの情報発信ツールの中でいわゆるコミュニティ・ラジオ、FM局が多いんですけど。そちらというのは、木津川では中々無いんですか。宇治市はあ</p>

		<p>りまして、FMうじというのがあって、そこは結構ですね、市の情報なんかを入れていますので、ちょっと防災だとまた同じようなごみの問題言ってなんと、肝心の防災の時ですね、言い換えると聞かれないということが、無いかも知れませんけど、それはそれで緊急のという形から言うと防災は防災に…。乗るのはいいのですが、あまりそれが主になてしまふと肝心の防災の時に役立つかどうかということがあります。何かそういう、宇治の場合は市役所の中にありますので、木津川のFM局みたいなのを正にそういう形で、皆様方には審議委員をやってもらっているので、そういうところでゲストに呼んでもらって、ごみのこういう審議会やっていますよ、私のアイデアは…、というような形で協力していただくと、正に先ほど誰かが仰ったように、市民が中心になってごみの減量化に取組むという形が出てきます。どうしても行政からの情報発信ではなくて、市民同士がそういう形で協力し合うという形が作れれば、もっといいような気がします。</p> <p>そういう面から言うと、段々流れというのは、そういう市民が自らの体験やそういう発想に基づいて情報発信をするという形。それから行政にあっては先ほど言いましたように単なるごみだけじゃなくて、他のところの行政資産ですね、これは基本的にふれあい収集はそういう関係を持っているんですね。いわゆる高齢者、それこそ独居老人に対する支援をしながら、そういう人たちが元気でいるかどうかということの確認もできるという形ですし、将来的には恐らく、今、木津川ではどうなんですかね、いわゆる次第に大きな問題になるというのはごみ屋敷ですよね。という問題。そういう対策も考えていかなければいけない形の中で、どうしてもそういう老人となると、民生であるとか福祉とかそういう人たちとの付き合いが多くなって、ごみの観点からというのはあまり無いようありますので、そういう面での連携というのは非常に重要なことだろうと思います。</p> <p>それからもう一つですね、京大との関連なんかを言うと、布オムツは確かにそうです、ありますけど。もう一つ仰ってたように、紙オムツを関係、生分解性のプラスチックを使ったオムツだと、コンポストに出来るんですよね。可能性があるので。そういう形の京都研究みたいな形で、まあ京都研究する必要はない、京大に何とかやってくれませんかと、京大は恐らくスポンサーの紙オムツの会社だとやっているだろうと思いますので、もう一つ布オムツだけではなくて、そういう形の可能性も出てきますので、それが企業にとってはビジネスチャンスに繋がっていけば、ごみを減らすと同時にですね、自分のところの商売にもなるということで取組むだらうと思いますので。そこいらの提案をしていただけたらと思います。</p> <p>いずれにしましても皆様方のご意見の中で一部はそういう形で政策的な検討課題に入り始めたというのは望ましいことだと思います。他には、はい、どうぞ。</p>
委 員		<p>資料2の一番最後のところなんですけど、更なるごみの減量ということで、これまち美化さんの方にお願いしたいのですけど、まち美化さんの方で住民の目線に入った分別の仕様というのは、できないのかなと思うんです。我々推進員の力では、現場に入ってもやはり限界があります。まち美化さんの方で現地の方へ入っていただいて、三減主義を貫く形で行けば、新しい地域の連携だとか、地域づくりの中で木津川モデルの構築とこういうこともできるのではないかなど。地域によってはゼロ・イニシャルに取組む地域も多分出てくるんじゃないかなと思います。そういう地域があってもいいと思うんです。</p> <p>それから資料の3の2ページ目なんですが、下の方で学校用品リユース推進事業。これはちゃんと木津川市として推し進めてもらいたいなと思うのは、何故かと言うと、私の孫が小学校3年から6年までいた間、何が無駄だったかと言うと、書道用品を買わされた訳ですね、学校で。非常に高い値段で買わさ</p>

		<p>れているんですよ。平和堂さんだと、そういうところに行ったら2,000円くらいで買える物が4,500円だと5,000円位で買わされちゃう訳ですよ。そして買って、4年間で何回やったかと言うと14回から15回なんです。書道の時間がね。それでどういう練習したかというと、半紙3枚与えられて、御手本は先生が書いたものをコピーしたものを下に敷いて、上からなぞって書くと。そして、それを教室の先生に出したら、丸も何も今付けないんですね。付けると差別になるからちゅうことで付けないらしいんですけど。それを今度は黒板に全部貼ってる。後ろの方に全員貼ってしまうんですよ。非常に無駄だなと思うんです。だから私、書道教室2箇所持つて、ずっとやっていますけれども、はっきり子供に対しては差別の言葉を使うんです。妹より悪かつたら、妹に教えられるとか。そういう時にそういうことをはっきり言うことによって、非常にやっぱり進歩もあると思うんです。</p> <p>それから、最後のレンタルサービス情報の提供というところですけど、この紙オムツなんですけれども、レンタルサービスというのは今の段階は良いかも知れないですが、私、色々調べていいたら、レンタルするより購入して処分した方が安くなっちゃうんですよね。値段がはるかに安くなるんですよ。</p> <p>一個買う場合は高いんですけど、これ何枚もまとめて買うと、値段が安くなる。これからこういう商品が出るとなってメーカーも気が付けば、オートメーション化してしまうと今の値段の3分の1位まで下がるんじゃないかなと思うんです。</p> <p>そういうことを考えたら、これレンタルサービスじゃなくて、まち美化さんは大変かも知れないんですけど、もうこういう紙オムツだと特殊なものを燃やす装置を別に作ったらどうかなと思うんですよ。これだけの装置を作ると。そういう形でやつたらどうかなと思うんです。それから私、燃えるごみについては私の家で色々と細かに調べてますけど、年間一番多い時で、燃えるごみを出したのは57kgです。平成23年。昨年は年間36kgまでごみ落としてます。その中に調べるのは電気代とガス、水道、灯油、ガソリン、ごみの可燃物のデータを10年来付けていますが、これをやることによって、自分自身で下げるを得なくなってくるんです。お金かけてでもごみの可燃物というのは減らす努力をしなければならないなと思ってくるんです。自分自身が。だから、是非こういうものを参考にして欲しいとは言えないですが、別に参考になるかどうか分かりませんけども、こういうものを各家庭とか学校で取り入れてやってくれたら、もっともっとごみの減量というのが進展するのではないかと、そう思います。以上です。</p>
会 長		<p>ありがとうございます。</p> <p>一つですね、廃棄物減量推進委員だけでは限界があるというのは、具体的にどういう形が限界にあってということなのか、もう少し分かりやすくお話をいただけたら、ありがたいのですが。</p>
委 員		<p>限界があるというのは、これ私の例なのですが、最初は年に何回か一斉定例清掃というのがありますし、それにはビニールの袋の中に無差別でごみを入れてもらう訳ですね。それから今度はそれを持って公園に集まってもらって、そこで分別しながら分けていく訳です。そこまでは良かったのです。今度は、その次は一斉定例清掃の時でない時に私が町内を回った時に出し方が悪かった方がいたので、それを説明した時に「市役所の人間でないのに、何でお前がそんな説明をするんだ。お前の指示なんて受ける必要ないんだ。」と、そういうことをズバッと言わてしまってから、もうみんなの前に顔出しというのは、はっきり言ってはできなくなってしまったんです。だから、是非やはり行政の力でそういうところは押し込んでもらいたいなと思います。</p>

	会 長	ありがとうございました。よくわかりました。 そうしたら今まで、事務局が対応できるところだけ回答をお願いしたいと思います。
	事 務 局	<p>まず、今ご意見いただきました、いわゆる分別の指導ということでしょうか、各地域への啓発あります。</p> <p>平たく地域への指導を行うということについては、中々全域を回るというのは、人員的にも時間的にも非常に厳しいものがあると思っております。ただ、先ほどもありましたように新しいシステムを取り入れていく。例えば、京大農場との連携であるとか、それから新しい分別があちこちに発生してモデル地域として色々な先進的な取り組みをしていく。そして、そういった中身を色々な地域へ普及といいますか、広がっていくような、そういった地域へ入って指導するあるいは啓発を行うということは、今後必要になってくるかなということは考えているところです。</p> <p>そして、学校用品の関係ですね。非常に大事なことだと思います。是非そういったことを意識しながら進めていきたいと思います。それから…。</p>
	会 長	紙オムツを購入した方が安くなってくるという中で…。
	事 務 局	<p>そういう例があると聞きます。ただ、市民が個人的に使うケースもありますし、それから例えば、介護サービスとか事業所が使う場合もある訳であります。全部それも一般廃棄物で出てこようかと思うのですけど、そうしますと、そういう事業所が処理をしようとすると割合高くなるというような話も聞かない訳でもないんですね。</p> <p>ただ、今〇〇委員が仰ったようにぐんぐん安くなってきてているというところがありますけれども、どうしても紙の方が便利だといいういわゆる利便性と、いわゆる環境を意識したものをどちらを優先するのかというのが非常に、私も現場の立場に立つと、もしかしたら紙を選んでしまうかも知れません。そういう中でもやはり、こういう効果があるんだよと、布には布のこういう良さがあるんですよというところを啓発していく必要があるのかなと思っております。</p>
	委 員	現場に入って分別ということも、もう一つの方法は州見台だと月1回自治会役員の定例会があるんですよ。班長を含めた。そういうところで、そういう会合とかはどこの地域もあると思いますので、そういうところに出かけて行って、市の方から分別に協力してくださいと。そういう方法もあると思います。それ一度検討していただけますか。
	事 務 局	今、地域へ出掛けての説明、周知、啓発、指導ということですが、これにつきましては出前講座を元々推進員の皆様にやってもらっているんですけども、市としても是非やらせていただきたいということで今周知をしているところで。入口はまた違う古紙の分別というところからの入口になりますけれども、古紙に関わらず生ごみなども含めて、その際にはご紹介をさせていただいております。昨年度末来、実は少しずつですけども、そういう依頼があるようになって、3件ほどやっているんですけども、是非それは進めていきたいと思っております。以上です。
	会 長	もう一つ、〇〇さんが仰ったように、ある意味ではごみに関する環境家計簿だと思いますけども、いわゆる自分が出しているごみの量を減らすためにどれだけ朝晩に測りなさいと、そして増えてるのか増えてないのかという形から言うと非常に良い方法なんですよね。ごみを減らして。是非とも皆さん中心にそういうのを簡単に付けられるような、どうしても測らなければいけないとか色々

		<p>あって、中々意識の高い人だったらできますけれども、簡易的に中々それが出来ない。そうすると、大体このぐらいだと見なしてどのくらいと考えなさいとか、そういう形が出来れば、ある意味ではそういう形を正に木津川方式という形で、各家庭の中で付けて減量化に取組んでいますよという形もあり得ると思います。</p> <p>是非とも良い手法ですので、その面から言うと、そこいらを少し開発してもらえれば非常に良いことですね。それこそ先ほどの話じやないですけれども、有料化が進んでくれば、どうやつたらごみは減ると、お金払わなくて良いのということになると、これを使ってやって御覧なさいという形で、○○方式だとお金を払わなくてもごみを減らせるよと、そういう形の中で皆さん使われるようになる可能性はありますので、是非とも有料化の後、それを財源にして水野方式のごみの減らし方のあれを開発してもらうというのは、一つ在り得るかも知れません。楽しみが増えてきたような気がしますけれども。是非ともそういう形のあれとして、一つ検討されることは在り得ると思います。中々そういう面から言うと、環境家計簿のごみ編という形で、私はこうやって減らしましたよというのは、中々ノウハウとしてはありませんので、是非とも今までの経験を地域に還元をしてもらうという意味で、そういう形を考えるというのも在り得る気がしますね。</p>
委 員		<p>生ごみが一番現在悩みを抱えているごみですよね。生ごみを減らすのが一番、古紙も紙オムツも大事やけども、生ごみを減らすというのが現在の大きな課題だと思うんですよ。それで私たちは田舎に住んでますので、生ごみは一切町のパッカー車には出しておりません。全部穴を掘って、全部埋めております。だから、ある意味で空いている土地がようけ草だらけにしてるとか、そういう減反している土地が沢山あると思うんですよ。そこに燃やさないでパッカー車がそこに生ごみをくっつけるような体制を取られるというのが私の個人の考え方です。生ごみをドンドンドンドン燃やすところが増えるばっかりで、ほとんど水が50%ぐらい含んでるし、ある意味でものすごく無駄だと思うんですよ。だから、生ごみを地面に戻して、更に土地を良くして、そこに何らかのええ方法で色々なものを作って還元するという方法をね、余っている土地を利用してそこに捨てるように考える方法も私はあるんじやなかろうかって、一番手っ取り早く生ごみを処理できる方法で、燃やすごみの燃料代もいらないし、土地が良くなるし、そこで色んなものを還元してね、土地を肥やすことによって、色々なものを作って皆さんにそこを貸し出して、そこを何とか農園ではないけどね、ごみを捨ててくれはった人にそこで好きなものを作ってもらうとか、そういう夢のあることをある意味でするのが、良いんじやなかろうかと。私、一切生ごみは家で、まあ土地があるからかも知れませんけど、まあマンションとか色々住んだはる人があるにしてもね、ある意味で余っている土地とかほん目の先にあると思うんですよ。田舎のもう農家しないお方が一杯おられるので。草が茫々としている土地があっちこっちにありますよ。そういうところを借り出して、あんなもんバアっとユンボで穴を掘ってもらってするぐらいね、そんな高いお金で町の財政使ってドンドンドンドン水をほとんど含んでいる生ごみを燃やさんと、そういうところを活用した方が木津川市のために金銭的に助かるんじやなかろうかと。</p>
会 長		<p>ありがとうございました。ご承知でしょうが、埋立というのは許可が必要でして、法律を守らなきやいけないので、障害がちょっと…。中々できない問題で、というのは元々生ごみの問題というのは衛生上の問題から始まったんですね。ところが最近はそういう衛生上の問題というのが、伝染病が媒介されないという形が出てきたので、リサイクルという形ですと。だから、あまり不適正に大量にそういうところで環境基準値を守らないでというようなことが出てく</p>

		ると、またそういう問題も出てきますので、そこはちょっと慎重に考えながら、個人でやる分については自分の土地に対してそういう形で…。
委 員		でも、余ってる土地が沢山あるから、全部そうしろとは言えないけど、何ばかはねそういう方法を取るのも良かろうかと思うだけで。全部が全部そこに放り込むという意味じゃなくて、それをちょっとすることによって、ある意味で生ごみ減量化に役立つんじやなかろうかと、まあそれについては色々な事が起こってくるけれども、やってみないと人間で分からないでしょう。
会 長		法律の問題が一番大きな問題です。
委 員		そうですね。それでどうなるかと、できることなら法律の穴を潜ってでもね。そうしたら良いんじやなかろうかと、そこまで考えております。
会 長		ありがとうございます。気持ちは分かります。ただ、木津川としては法律を破ってまでは…
委 員		破ってはいけませんけども、そこまで考える必要があるんじやなかろうかというぐらい生ごみがものすごく増えております。水が半分以上燃やしています。
委 員		まず、古紙回収補助金というのがございまして、N o . 4ですね、資料ナンバー。
会 長		まだ、N o . 4までいってないです。
委 員		そうしたら、雑紙の袋ということで古紙回収補助金の方を団体の方へ配布されているのですけど、雑紙の保管袋をお渡ししていただいているんですね、その古紙回収をされてる団体の方に。それを全戸に配布をP R 兼ねてモデル的にしていってはどうかなという風に思うんですけど、その辺について一つお伺いしたいと思います。
		それから、ごみ収集カレンダーですが、毎年配布をしていただいているのですけど、今年度まだのように思うんですけども、その点のことをお伺いしたいということと、それから先ほどからも出ておりましたが、いわゆる生ごみの方にこちらの方もリユースという対策の強化ということで、消費期限あるいは賞味期限、そういういたものの切れたものを出しておられるという風に、私も沢山見るんですけども、その点について、女性の委員さんもおられるんですけど、何かそういう工夫をして、それをP R していったらどうかなという風に思うんですけども、良い案があれば提案されたらどうかなと思います。
		それから年度がもう今年度、2 6 年度が終わりまして、もう出納閉鎖期間ちゅうんですか、整理期間も終わると思うんですけども、あらゆるデータにおいて、まだ2 5 年度ですので2 6 年度データをこれ、今回欲しかったなあという風に思うんですけども、その点、今時分出ないのかどうかという風に思うんですけども。
		それから先ほどからも出てますけども、地域長さんを主体に各地域でごみに向けて色々な研修というどこまで行かなくとも、地域長さんを主体にそのごみ減量化対策あるいはそういった分別等についての研修を住民の方々とされではどうかという提案をさせてもらいたいと思います。
会 長		五つ程ですけども、事務局ございましたら…
事 務 局		五点、ご質問をいただきました。

		<p>まず一点目に、雑紙の袋の全市的な普及をやつたらどうかということですが、これはまだ全域配られていない状況であります。これは古紙の回収団体の皆様方に配布をさせていただきました。これは委員にもご協力いただきてお口添えいただいた雑紙袋でありまして、実は8,000枚ほどいただきましたが、ほぼ無くなってしまいました。非常に有効だという感覚を受けています。従いまして、今後この袋、どういう形で作って広めていくのか、その袋の中身の事も含めて今年度検討したい。できれば、来年度には何らかの形で広報啓発するようなことができればなと思っております。また、あまり地域長さんばかりにお願いすると、負担が増えて大変だと思うんですね。そういうことから古紙回収団体の代表もおられる訳ですね、そういった古紙回収団体の窓口の方を入口にしながら、この話を進めていきたいなと思っております。</p> <p>それから、ごみの収集カレンダーにつきましては、これは毎年、広報に折込んで配布をさせていただいておりますので、3月の広報で今年度分は入っていたかと思っています。</p> <p>そして、生ごみの賞味期限等のことで、リデュースのところで食品ロス削減国民運動というのがあります。これ資料にはコメントしか書いてないんですけども、この賞味期限・消費期限、それの啓発するような啓発ツールが沢山あります。それを計画的に段階的に、例えば広報なりホームページの方で、一片に全部出してしまうと、ちょっと中身の話の流れが分からなくなるかなって思っていますので、そういったものを活用しながら國のものをドンドン活用していったら良いと思います。</p> <p>そして、26年度のデータになりますけれども、まだ今出納閉鎖にはまだ時間があと半月ほどある訳ですけれども、正確な数字がまだ確定できない状況であります。今、見込みという形になってしまいますので、また数字は変わってくるということになります。とりあえず今回は25年度までということでお許しいただきたいというふうに思います。</p> <p>そして、地域長を通じて地域単位のということであります。例えば防災関係であるとか、色んなところで地域長の皆さんにはご負担をおかけしながら。○○委員もおられるので、ご意見もお聞きできれば良かったんですけども。ごみの減量というと古紙だけじゃない訳ですけれども、できるだけ何らかのどこかの入口で地域の中に入って、単に啓発だけじゃなくて、地域の中に入っていく中で、古紙だけじゃなくて生ごみの方を減らす啓発も同時にやっておりまし、そういう全般的なところ、ということはそういう話をする時は必ず円グラフが出てくる訳です。「生ごみがこれぐらいあって、古紙がこれぐらいあると。だからできることについてはこれこれこういうことをやっていきたい」と、そういう前置きをしながら古紙の話あるいは生ごみの話を進めているところで、色んな入口を使って今後進めていきたいと思っています。</p> <p>○○委員から非常に先進的な、かつ数値目標的なことを言われたことを含めですね、一つごみゼロとかいうことで、ごみゼロ地域ですかね、約してみると。そういう提案をなさったんで、次の有料化の問題もかかってきますけども、それだけと違って、先ほど○○委員からも生ごみの関係ですね、法律を犯してもらったら困りますけれども、一定の州見台地域とかあるいはそういう先進的な地域ですね、ごみは分別してプラスチック、それから生ごみはこれやと、古紙はこれやと、雑紙はこれやと、それからこれだけ汚れたプラスチックやとこれはしようがないなとか、鉄の古いやつはしようがないなとか、それはあるんやけれども、ごみゼロ地域ですね。私たちは、ごみゼロ企業ですか日本語で言うてますけど、ゼロは英語ですけども、そういう企業と違ごて、地域についてもごみゼロの地域ということで、市からそういう交付金やないけども、そういうようなのをあてがうような施策ですね、考えてもらうとか、そういうことをちょっと一つ柱に、どつかの小さな柱に入れたらどうかと思います。とい</p>
委 員		

		<p>うのはですね、私も○○さんとか○○さんとかもそうですけども、皆汗をかい てごみを減らしています。そういうことからすれば、汗をかいた地域に、汗を かいた人についてはそういう負担を軽減するとかあるいは奨励金を出すとか ね、そういうような施策を考えたらどうかなということです。よろしくお願ひ します。</p>
会 長		<p>有料化の議論も出てきましたね。</p> <p>恐らく自然科学の衛生工学から出てきたゼロミッショングで、理論的に成 り立たないという理屈が出てくるだろうと思いますけど、できるだけ可能な限 りごみゼロに近付けていくことの努力はしていかないといけないと思 います。そういう面から言うと、一つの努力をこうして見ていくのかという形の ビジョン作りの中で、今回は恐らく議論はもうちょっと減らしてというもので すけど、これぐらいいけるんだったらもうちょっと頑張ってみようという形で ゼロミッションに目指すような計画が次の基本計画の中に出てくるような取組 みが、効果が出てくればという風な気がします。そういう面から言うと、まだ ちょっと早すぎるかなと。</p> <p>仰るようにモデル地域として、問題はそこですよね。いわゆる今の所、行政 が持っている設備に合わせた形あるいは組んだシステムにあわせた形でごみを 出してくださいという形を求めるのが一つの効率的なやり方ですけども、問題 は「いやそれ以上にやりたい」という意識の高い所とかですね、そういう所の 中で自由度をどれだけそういう形の中で持たせてという形かなと、ある意味で は行政が関わらない、しかし責任は自己責任の中で、そういう形で実際に何ら かの問題もなしにという形ができるような可能性があるんだったら、地域の中 でもそれを追求していくというのは、ある意味では重要なころかもしれません。 ただ、それはやはり行政との調整が非常に重要なことになるだろうという気が します。というのは、分別の仕方とかが変わってきた時ですね、それぞれの地 域の需要に合わせて行政が対応できるかというと、今のところ行政の対応とい うのはそういう画一的な形で、中々できないんですね。しかし、行政サービ スというのが画一的にやるよりもそういう需要側の意識もありますけど、需要 側の住民の意見を踏まえてやれば、コープロダクション、日本では共に 働くという形で「協働」と訳しますけども、そういう形の方向性の方がむしろ 地域の活性化に繋がるという形のこともありますので、そういう面から言うと そういう形で上手く地域と行政とが、供給側と需要側が上手く相乗効果を合わ せるような形での取組みというのがある程度は余地を残しておくというのは必 要なことかも知れませんですね。ありがとうございます。</p> <p>大体そういう形の中で、少しずつ目指す方向を含めた形での2Rの提案とい う形でやっていただきましたので、そういう形を再度踏まえた上で最終的なま とめを報告という形ですね、次回の審議会に出していただいて、そして市長 の方へという形で取扱わしていただきますので、第一の議題についてはそ ういう形でまとめさせていただいてよろしゅうございますでしょうか。</p>
委 員 会 長	員	はい
		<p>ありがとうございます。そうしたらですね、少し長めになりましたけれども、 1の方の審議についてはそういう形にさせていただきたいと思います。</p> <p>二つ目の今から議論していかないといけないものとして、今の提案を含めて かなりお金が要る問題ですので、有料化というのはそういう面からいうと、有 料化による減量化のインセンティブを持たせると同時に、二つ目にはそういう 形の収入をどうやって更なる減量化に繋げていくかという形の財源にもなる。 これを収入のリサイクル効果という風に一般的に言われている施策であります けれども。そういう面での有料化、更なる減量化を目指す有料化の導入を含め</p>

		<p>た検討についてということで資料を用意していただいてますので、これに基づきながらですね、一応基本的な考え方についての共有化を今日図って、そして次回から木津川の中でどういう風に具体的な制度設計みたいなことを考えながら、メリット・デメリットを踏まえた上でやっていくかという形の検討をさせていただきたいと思いますので、まずはそもそも有料化とは何かという、なぜやらなくちゃいけないのかということも含めて事務局から資料4に基づいてご説明をいただき、ご質問とご意見をいただきたいと思います。そしたら、よろしくお願ひいたします。</p>
事務局		<p>事務局説明省略 (No.4 : 更なる減量化を目指し有料化の導入を含めた検討について)</p>
会長		<p>今の説明の中で更なる質問をしていただきて、もう少し情報の共有化を図つていきたいと思いますけど、何か分からなかつたりしたところですね、お願ひします。</p>
委員		<p>このごみの有料化というのは必然的に必要になってくると思うんですけども、まずこれ、今説明を聞いた内容ではこのごみ行政に対する将来像というのは何もないんです。 小さい子供がドンドンドンドン大きくなっていくのに従って、下着も上着も取り替えると。その都度、お金がかかってくると。ただ、それだけの状態なんですよね。人口が増えれば、当然木津川市の機能も変わってくると思うんです。色々と。ごみ行政に対する機能も多分変わると思うんですよ。変わらなかつたら、大企業誘致ということで色々動かれてますけれども、企業誘致はしても本社機能までは多分この状態だったら、移ってくることは有り得ないと思います。まず有り得ない。それはもう断言できます。ただ、もう少し機能別にどうなつて変わるのかなと。それをハッキリしないとこれだけだったら、ただ人が増える、ごみが出てくる、燃やすごみはこれだけです。これだったら何もわざわざこういうグラフ作る必要もないし、あと何年かしたらもう一回この審議委員会を立ち上げて、もう一回また有料の金額を変えたいんですけど、そういう話になってくるんじゃないかなと思うんですけど。将来像っていうのはどうなんですか、これ。</p>
事務局		<p>将来像、いわゆる木津川市としまして、どういった内容で取組むかという辺りにつきましても、今後ですね、市の考え方をこの審議会で皆さんにお伝えしながら、また他市の事例なんかも挙げながら、この場で協議いただきたいなと考えております。</p>
委員		<p>まあ、それしか答えられないですね。わかりました。</p>
会長		<p>基本的にやはり、今までのごみ処理基本計画を実現していく上における位置付けになるだろうと思いますけど、基本的に一番大きな国全体としての問題から言うと、循環型社会をどう構築するかですね。それを推進するために、こういう有料化する事がごみの減量化とそれから再資源化を進めていくことになるのかどうか、という形の中で有料化をすればどれだけの環境負荷も含めた形でごみが減るのかという見通しを見ていかないとい、今〇〇委員が仰ったように制度の設計によりましてはリバウンドが起こつてくるんですよね。リバウンドを起こすような形で料金を決めてしまうと、先ほど仰ったように、何回か値上げをしたり、色んなことをしなくちゃいけない。そういう面から言うと、どれだけインセンティブ効果という言い方をしているけれども、それはこの京都大学のあれにもありますように、これは恐らくこのままの形の中からいうとあまり</p>

		<p>意味のないものになりますけども、これはやはり有料化をどのくらいの有料化にするかによって、ずいぶん効果が変わってくるんですよね。だからそういう形から言うと、経済学で言うと需要弾力性と言いますけど、それをどのくらいだとどのくらいやるのかというはある程度見通しが立つようにしておかないと、有料化ありきという形は避ける言いながら、結局は有料化ありきになっちゃってという話になりますので、そこは今後資料の中でそういった形の調査も含めて資料を出していただくということも必要になるだろうと思います。</p> <p>まあ、基本的には循環型をどう進めていくか、そのためにごみの減量化と再資源化をどう進めるか、これは廃棄物処理の中での目的の二番目に書かれてるものですね。いわゆる生活環境といいますか、いわゆる公衆衛生上の適正処理の後に書かれているものの実現のために必要だと思います。そこへは基本的に環境省の見解であるとか、あるいは全国市長会の中で、そういう有料化についての意味というのは位置付けていると思いますので、そういうのを参考にされながら、少し補足をしていただけたらと思います。</p>
委 員		<p>有料化にすれば、ごみを減量できるというのをストレートに捉えて良いんでしょうか。逆に捻くれて考えたら、恐らく方法は色々あると思うんですが、よくあるのが収集袋を有料化するというのはよくあるパターンですよね。そしたら、「うちの家は有料化でごみ袋をお金で買いました。だから、いくらでも出しても良いでしょ、後処理するのは行政でしょ。」っていう風な考え方おらん訳ではないと思うんですよね。だから、有料化の前にやるべきことは、もっとやつていかなあかんことがあると思うんです。市民教育って、それは上から目線な言い方になるかも知れませんけど、もっとごみを減らしましょというアピールをしていって、こんな方法がありますよ。</p>
会 長		<p>それは今までの2Rの中で議論してきた施策でしょ。問題はここでは、それでは何らかの形での費用はかかるし、その費用をどうやって捻出するかという形の中で、こういう形でごみを減らせば得をするし、またその有料化の財源でもって更にごみを減らしていくという形で捉えてると。だからそういう面から言うと、もっとごみを出すんやなくて、ごみを出さない方が得ですよ、そしてリサイクルしたり減量化したら得ですよという形のメリットを生かすという形での議論の仕方だと思います。ただ仰るように、一つはこの中に書かれているのはデメリットが書かれてないんですよ。言い換えると、これは過去の随分古い話ですけども、かなり早い段階で有料化した町の中でむしろ不法投棄が増えたことがあったんですね。これは山の中だったために不法投棄しやすい環境があったために、そういう面でできたということ。それから、仰るようにあまりにも安い形の有料化だと仰るようにお金さえ出せば（ごみを）出せていいパンパン出せるという形で増えてきたというところもあります。これは設計の問題で、どういう形でやるかということの中になると思います。そういう面から言うと、一生懸命ごみの減量化のことを考えてきましたと、その中には今までお金の要らない部分、それから場合によってはお金の要る部分ですね、助成をしなければできない部分がある。そういうことに対応する形での、もう一つの対応として、この議論がなされているということを踏まえていただけたらと思います。</p>
委 員		<p>私の自治会、町内会でも古紙回収はやっております。集団回収は。それとあの、古紙回収の団体への補助金というのはいただいております。本当はやっぱりいたいたいたらありがたいです。色々町内会の事業に使えるってことであるんですけど、もっと進んだ考え方やったら、お金は要らないというような仕組みが出てくれば、もっと他に有効にお金を使っていただけると思うんです。</p>

	会長	仰るとおりです。ありがとうございます。 正にそういう面から言うと、これを有料化することによってどうやって、まあ意識付けのところも、何のためにやりますかという中で、いくつかの自治体が答えていると思いますけども、そういうことも効果として挙げられるような形を考えることも必要だと思います。
	委員	21年度の目標基準とありますね。5年経って今3%しか達成できていない。じゃあ、あと十年経ってですね、本来の目標の30%にしようと思ったら、革新的なことがないとですね、まず難しい。これは皆様方、委員様とか、地域長さんが今までかなりの努力をされて、この状況ですから、どう考えても同じようなスタイルでは、難しいだろうというのが読み取れるんですね。その中ですね、今有料化についての賛否が当然あると思うんですけども、既に有料化をされた地区がかなり沢山ある中で、ある程度の効果はもう既に明白に出ていると。なれば後は、そのマイナス面をどうカバーして、木津川市に導入するかという、そういう考えに落ち着かざるを得ないかとは思うんです。実際のところ私の住むエリアでもこの10月から有料化になります。自分の子供が住むエリアは既に有料化されています。時代の流れとして、これを有料化でなしでいこうと思ったら、人の心を新たに、もう革新的なことがない限り止められないかなと思っております。そういった意味で、例えば、あと一年もしくは2年間の猶予をもって、目標とする数値に達せなければ、有料化に進むという形を市民にPRでもしながらでも進めなければ、多分今やってることのちょっとした延長の繰り返しで、急激な進歩はないんじゃないかなと、失礼ながら思った次第あります。以上です。
	会長	ありがとうございます。仰るようにですね、恐らく○○委員のご意見もそうだったんだろうと思います。一生懸命まだ有料化する前にもっとやりなさいというような、やらないと有料化というのが待ってますよと、だから自らそれやってみましょうと、その中でその達成が非常に難しい場合にはやむを得なしに有料化をやるという形のことを恐らく仰りたかったんじゃないかという気がするんですけども。正にそういうものですね。ただ言えるのは、仰るようにこの中では、行政ではありがちなことですけど。有料化ありきじゃないですよと言ひながら、有料化のデメリットが書かれてないんですよね。意外とアカウンタビリティができてなくて、良いところと悪いところを見ながらどうしても回避できない、○○委員の仰るように必要であれば、そのデメリットをどうやったら木津川で起こらないようにするかという形の議論をしていかないと、これだと一方的に良いことばかりで、それならという形で進めて良いんですかというような議論になってくるかと思いますので。ことさらに事を荒上げるつもりはありませんけども、やはり説明の仕方としてはデメリットも少し、どういう弊害が起こっているのか、増加をしていることはどういう原因だったのかという形を資料として出していただくのは、非常に重要なことだと思います。
	委員	私たちは土地があるから生ごみは一切全然出していないので、有料化には私自身としては反対です。ある意味で全然出しませんのでね。
	会長	出さないということであれば、有料化はなぜ反対なんですか。というのは、お金払わないで、今まで払ってないし、有料化した後もお金を払わないで…、お金払いたいんですか。
	委員	お金を払ってまで有料化にする必要がないという私の意見です。
	会長	なんで。その理由を。

	委 員	土地を持っていない人は、それは有料化されはたら良いけども。土地のある人は一応、皆、生ごみで出したはるんですよ。
	会 長	だけど、有料化していったら、その人たちは出さなくなるんじやないですか。自分とこで…
	委 員	そういうものもあるけどね。でも、自分とことしては、できるだけ自分のごみは自分のとこの家で処理するのが本来の形やと思うんですよ、私は。だから、周りでも農家してはる家でも出してはらへんわ、全然ね、自分とこの前に畑があつてもね、全部生ごみで出してはるんですよ。
	会 長	今まで無料やつたから、自分ところで放って、そんな苦労するよりも、そのまま持つて行ってもらつたらということでおされていた。ただ有料化してくると、お金を出してまで楽な方は選ばない。むしろ有料化されたら自分のところで埋めるという形でやる可能性があるということから言うと、地方自治体にとってみれば、受け入れる生ごみの量は減るんですよ、有料化は。だから、ごみを減らすことに反対なんですか？それだと有料化が反対という形は分かりますけども。
	委 員	ごみを出すのに反対です。
	会 長	ごみを出すのに反対ですね。分かりました。
	委 員	ごみは自分とこで。
	会 長	だからこそ、ごみを出した人には、言い方がちょっときついかも知れませんけど、ごみを出した罰としてお金を取りますよというのが一つの有料化ですね。ごみを減らして自分のところで処理したら、お金は出さないで良いですよという形のインセンティブ…
	委 員	モラルの問題やけれども。農家の人もね、ある人は全部土に戻したはりますよ。だから、地面を持っていても、穴を掘るのが面倒臭いと言って、出してはるんですよ。有線とか山城町放送しありますやろ、そういう時にある意味で（土地を）持つておられる方は、できるだけ、しんどいかも知れませんけどね、穴を掘って、自分の土地を肥やす意味でもね、ものすごく良い方法ですやん。私はそういうのにものすごく賛成している人間ですのでね、土地のない人は、埋める所がない人は有料化されはつて当然ですけども、ある意味で、減らすという意味ではね、私それね、土に戻すっていうことはね、環境にも土を肥やすということはね、環境にものすごく良いと思いますねん。燃やす燃やす言うてね、燃やしてもらつたら、そら有料化でね、生ごみを燃やしてもらうの良いか知らんけどね、できるだけやっぱり、生ごみを減らすという意味ではね、ごみを土に戻すということは根本的にね、土を持ってはる人はようけいやはるのにね、全部生ごみでパッカー車に乗せて出してはりますわ。私、そういうの見えてると、あんた、ごみな、あんたとこやつたら土地あるねんからな、ここ埋めてしまつたら土地も良くなるし、肥えるし、肥料も要らないし、私その方が良いってね、見た人に皆そう言うてますねん。
	会 長	良いことだと思います。ただ、全体の市の行政としてどうやるかということに、そういった個人の努力を求めるという形もあると思いますが、それもやつていかなかきやいけないと思いますが…

	委 員 会 長 委 員 会 長 委 員 会 長 委 員 会 長 委 員 会 長 事 務 局	<p>ある意味それもね、認めてもらうことも少々ね…</p> <p>そりや、有料化が進んでいけばいく程…</p> <p>そうですね、それを事前にやってからね…</p> <p>今度、言い方はですね、楽だから出しているかも知れないけども、埋め立てた方が良いよと…</p> <p>そうですよ。埋め立てるところもあるのにね…</p> <p>良いよという風に仰ってたのを、今度から、あんたとこ出したら楽かもしれないけど、お金取られるよ。それよりも、お金を取られるよりも、埋め立てた方が良いよという形で説得をされると、より効果が出てくる。そうすると有料化の方が重要な意味を持つ…</p> <p>生ごみをね、自分とこの生ごみぐらい自分で処理するのが本来のやり方やのにね、何もかも土地もあるのに、畑もあるのに全部出してはりますよね。それを見ると、私ある意味でね、そら面倒臭いかも知れないけどね、やっぱり汗水垂らして穴掘ってね、生ごみを埋めるということは土地を持っている人の特権やと思いますわ。そこで品物を作って、肥料とか買っても良いけども、それを還元してね、生ごみを埋めた場所はね、私ら経験してますけどね、肥料でも何でもやらなくともね、どんな良いものが出来ますか。ものすごく良いものが出来ますよ。生ごみは。私ら経験してるからね、経験してはらへん人はね、何もかも全部出してはりますねん。ある意味で。見る人、見る人に、あんたそんなんほかしてんとな、生ごみで土地もあるねんからな、そこ埋めた方が良いでと、しきりに皆に言うてるような感じですので、まあ有料化になるのかどちらが良いのかその人が考えはること色々あると思います。</p> <p>ありがとうございます。○○委員。</p> <p>ごみの有料化ということで、最後の表を見てますと、京都市さんは有料で、あと向日市さんがずっと大体この、木津川市より近々の衛星というんですけどね、城陽・宇治とか、この辺については無料ですね、木津川市も含めて。だから、一回この有料にされたところですね、丹波・丹後の辺ですかね、これ見えてますと、その辺の、先ほど会長も仰っているような、いわゆるデメリットとかそういうことについて、一回研修に行かれたらと思っています。それから小型廃家電が有料化になったと思うんですけども、その時に不法投棄なんかは木津川市はどのくらいあったのかどうか、お聞きしたいと思います。以上です。</p> <p>二点ですね。木津川と大体同じ規模の形で似たような都市構成をしている所の見学会の問題、それから二つ目は仰った問題ですね。お願いします。</p> <p>他市の事例ということで、いわゆる先進事例の研究ということになります。当然これから有料化の研究していく上では、こういう先進事例の研修を進めていきたいと思っております。ただ今、この場でまだこういうことでしたよと、お知らせできるものではありませんので、また今後、報告できるような形で出していきたいと思っています。</p> <p>そして、小型家電リサイクルのことを最後言っておられたのかなと思います</p>
--	---	--

		けども、有料化ではなく、いわゆる拠点で回収しようということで今やっています。
委 員		冷蔵庫とかのそういうことを言ってます。
会 長		あれは有料ですね。
委 員		有料ですね。だから、その時に得かどうかと。
事 務 局		廃家電が有料化の制定になったのは、もう数年前になるんですけども、不法投棄は毎年当然出てきます。特に増えてきているということはありませんけれども、毎年幾つかの不法投棄は発生しております。
会 長		全国的な環境省のあれでも、家電リサイクル法が制定されたから不法投棄が増えたという原因はないし、しかし毎年不法投棄が全くないわけではないというあれですね。
委 員		有料化にする前に市民にはどういう説明をするのかなと思うんです。ということは、私、この木津川市に入ってきた時に、窓口で転入の手続をやってますけども、うちの近所の新しいメンバーは皆そうなんですけども、ごみについては税金で処理しますと、そういう説明されてるんですよ。で、裏を返せば、有料化ということは、はっきり言ったら増税なんですね。税金がプラスされてしまうんです。排出する人間というのは。 で、私の近所の所で、一軒でもって犬を十数匹飼って、一回に出すごみが30kgも40kgもあるんだったら、これはもう、それなりにペナルティ的に有料でお金取っても構わないと思うんですけど、うちの場合は平成23年度で年間57kgです。この時が一番多かったんですけど、57kgまで落とすのに非常に手間とかお金かかるってます。ごみを乾燥させたり何か色んなことをやって、お金より手間が大変なんです。可燃物の軽量化をすることはね。庭に置いといたら、犬だとか猫だとかそういうのが来て、悪戯をするから、そういうものの上のネットを新しくこしらえたり色んなことやって手間暇かかるんで、一番良いのは有料化にして、ごみ袋に目一杯詰めた方が、私としては簡単なんです。はっきり言って。
会 長		だけど、今まで努力されてきてる人がいるわけですよね。さっき〇〇さんが言ったように、自分の家の周りで全部処理するとか、そういう方も多く私知っていますけれども、そういう人が一気にまた今度有料化になった時、また元に戻しても良いのかなと。そういう疑問も感じるんで、何かこうメリハリつけた有料の方法にして、有料にするかなんか検討しないといけないんじゃないかなと。
会 長		その通りで、これ、もう少し詳細に調べていきますと、一袋目までは無料ですよと、二袋目を出すという形の有料化もありますし、やはりどういう形で有料化するかですね。やはり最低限減らしても、減らせない部分というのは、まあごみゼロを目指すということから言えば減らした方が良いんですけども、中々減らせない。そういうものについてはもう最低限一袋ですね。そうすると今度は問題は何かと言うと、今度は二袋分出さなくちゃならないのに、仰るよう一袋目が無料だったら今度は二袋目のやつを無理矢理詰め込み合って一つにするという形をやって有料化を免れるわ、結局ごみの量が減るのか言うと同じだと、一つに詰め込んだだけの話だという形で、ごみの減量化が出てくるかというのはデメリットの方の人たちの話になりますので。 そのところはやはり慎重に、どういう形が一番効果があるのかという有料

		<p>化のあり方ですね、というもの。あるいはもっと考えなくちゃいけないのは、この中でもですね、京田辺なんかは基本的には有料化を一回検討したことがあるんですね。あるんですよ、市長から怒られましたけど。私も委員会の中でやっていた時ですけどね。その時にも、そんなに無理だったら、例えば粗大ごみからやつたらどうですかと、粗大ごみからまずやってみて、それからその後、その効果があるようだったら、もう少し他のところまで拡げていきましょうと。例えば、そういう面から言うと、普通可燃ごみだけを有料化するところが多いんですけども、京都がやり始めて、リサイクルごみですね。リサイクルするのにもお金がかかるんですよ。缶・ビンもお金がかかっています。ただし、缶・ビンの袋と生ごみの袋では、値段がちょっと違うんです。という形で入れるという形を取ってます。だから、色んなやり方がありますので、もうちょっと、有料化やってますよ、やってませんよということだけじゃなくて、どういう有料化をやってて、どれだけの効果があるのかということを具体的に見ていかないとですね、これだけじやちょっと議論してもらうには、ある意味では情報不足かなという気がします。これはどういう形が木津川に一番望ましいのか判断するための提案の時の非常に重要な問題ですね。</p>
委 員		<p>先ほど事務局の方から資料をいただいて、一応事前に目を通していて、よく分かったんですけども、有料化についてはやむを得ないという発言は私はしたくないです。というのは、やっぱりですね、何回も私言うてんねんけども、城山台のエコスクールだけ違くて、やっぱりいまだに給食の残飯が燃えるごみに出されてるというのが、これ考えられない、本当に。こういう実態をね、市役所は違うけど、教育委員会、学校やけども、学校用菜園にしようとかそういうような発想をして、かつですね、先ほどもっと努力せよということで言っておられましたが、有料化するためには、数値目標があるんやけれども、やっぱりイベントなんかでも、地域によっては山城なんかで結構頑張ってはるんやけれども、イベントでもやっぱり市が共催しているようなイベントについては、ごみの分別きっちりせえよというような、それを努力してるか、その実態をやってから、やっぱりなかなか30%しんどいですわ。ということで、まあ減らそうということで汗をかいてでもやっぱりやむを得ないということについてはですね、やっぱりそういうことをした後で、有料化やむを得ないということで、そう持って行ってもらわないとアカンと思います。</p>
会 長		<p>仰るように有料化をやっていく中で、先ほど何人かの方が仰ったようにこういう方法だったらごみを減らせるよということを元にやっていくということ。それがやっぱり重要なことで、ただ有料化した、お金取るよ、取らないよじやなくて、どうやつたら減らせるかですね。という形の中で、畑に埋めるとか、あるいは色んな形の工夫をされてる方々がいらっしゃるという形からいうと、○○さんはこういう形で減らしてるという形を書いてもらって、それを減量化の一つにしてもらうとかですね、そういう形の内容をドンドン入れていけば、それこそ市民の工夫がという形になると思います。</p> <p>だから、そういう面からいうと、何らかの形で減量方法をもう少し有料化をしていく時に、それからもう少し有料化をやっていく上において、そういう減量化をやっても、なおかつまだ中々ごみが減らないという、目標に達せないという話の中での導入の仕方というのをある程度お尻を決めて、という形でそれまでに達成できれば、有料化はしないでも努力できたという形になりますし、という形の中で有料化の位置付けというのは、皆さん方のご意見のような感じがします。</p>
委 員		<p>そのごみの減量のことなんんですけど、生ごみやねんけども、もったいないプランにも載ってますけど、ぎゅっと一絞り運動ってありますよね。それを家庭</p>

		<p>の主婦が徹底してやつたら、ぎゅっと絞つたら、私らそんなんをイベントごとに一絞り絞らないでそのまま量つた状態と、絞つた場合に量つたのと目方を計ってね、こんだけ違うというのを皆に見てもらっているんですよ。そうしたら皆「えー！こんだけ減るの!?」と言われますねん。ぎゅっと一絞り運動の、私たち旗を幟を立てて、アスピアとか加茂とかね、そういうイベントの度に私たちてるんですよ。だから、ぎゅっと一絞りというのは、生ごみ50%水を含んでる分、絞つてもらうのを徹底するということは目茶苦茶良い方法だと思います。ぎゅっと一絞り運動、幟を立てて、イベントするごとにその幟を一杯立てて、私たちくるつのメンバーたちは皆、頑張ってくれているんですよ。そんなん…って言ってはる人もおられると思いますが、これを徹底してもらって、山城町やつたら有線放送されるでしょ、その時に毎度毎度、口すっぱいように「ぎゅっと一絞りましょう」「ぎゅっと一絞りましょう」って、耳にタコができるぐらい皆さんに言ってもらうということは、1分も2分も、そんなん30秒ぐらいで言えますやん。それを徹底的にぎゅっと一絞り運動はして欲しいと思います。町の行政の人にもお願ひしたいと思います。</p>
会 長		<p>それは運搬費、それから焼却をする時の油代、これが随分浮きますので、そういう面での行政コストというのはかかりますから、非常に良い方法だと思います。また、もったいないプランの中でもかなり、水切り運動というのは書いてたような気がしますけれども、今のご意見が出てくるということは、中々徹底してないみたいですね。広報でどんな形で今までやつたのですか、水きり運動について。</p>
事 務 局		<p>今、色々ご議論いただいている、今回は減量をする際に、前回の議論、もったいないプランを作る時か分からないんですけども、まずそのどういったところにターゲットを絞るべきなのか、今のごみの現状を見ましょうということで、話をいただいたんです。その中で、もったいないプランの中にも書いておりますけれども、木津川市から出てきているごみ袋を職員が直接サンプルを回収させていただいている、コンサルの協力も得て、分別の組成調査をさせていただきました。その中で、先ほどから○○委員さんから仰っていただいているような生ごみの関係が非常に大きい、それと紙の関係が非常に沢山で、このところを何とか市民の方とともに減量すれば、ごみの減量ができるだろうということで、先ほど○○委員の方からは非常にハードルが高い意味合いでご意見をいただきましたけれども、一応設定値を設定させていただきました。これから有料化の議論していく時に、そのターゲットは本当に変わっていないのかどうかということと、市民の方が一絞り運動であるとかで生ごみを減らしていただいているのかどうかとか、古紙類はドンドン減ってきてるのかどうかということ、ごみの量が変わらない人も中の組成がどう変わってきてるのかどうかといふことも見極めないと、有料化した時に本当にごみが、本当に有料化として効果があるのかどうかといふことも必要になってこようかと思っていますので、今日色々ご意見をいただいている中においては、木津川市のごみの将来目標像をどう持っているのか、行政が像をどういう風に持っているのかというのもありますけれども、まずはターゲットに絞っているものがどういうもので、変化してきてないのかどうか、有料化する時の効果、その時に先ほど会長が仰っていたようにリバウンドしないのかどうかといったとかもですね、本当にターゲットが変わってないのかどうかといふことも見極めながらしていくことも必要なかなと思っていますので、先ほどから有料化ありきの議論はすべきでないというお話もございましたし、当然そういうことであろうと思っておりますけれども、市民の方がまだまだ努力していただけるところがあるのであれば、行政も一緒に努力することによってごみの減量を進めていきたい、その手段の一つとして有料化を今、議論を始めていただきたいということです</p>

		<p>で、今日、有料化をしていくということの中で意識付けるような委員会ではないということで私も思っておりますし、冒頭に会長も仰っていただいたように有料化をやるというのはどういうことなのか、問題になって今後どうすることを議論していくのかといったことを今日意識合わせをするということの会議であったのかなと思っておりますので、ちょっと話が長くなりますけれども…</p>
会	長	<p>仰る通り。そういう意味ですね、今日一回で終わる訳じゃなくて、デメリットの面も出てないので、もう少し詳細のやつね、議論していくためにはそれを出してもらわないといけないという訳で、次回こういう資料があったら良いよという形で要望がありましたら、こういう資料出してくださいと、先ほどの中で事務局が仰ったように、一つの考える資料として、そういう形の効果等の今の有料化しない中で、どういう風に効果があつて、それがごみ質をどう変えていっているのかというのも一つの有料化の資料だらうと思いますけども、それ以外に必要なものがありましたら言っていただきたいと思います。</p> <p>それから二番目には、そういう中で他のところの自治体の経験を見ることが重要な意味を持つんだったら、やはりこの委員会として、そのところに色々な疑問を持ちながら、訪ねるということも秋口には必要かも知れませんので、そういう準備も含めて、何か資料として要求されるなら、まあ今日はそろそろ時間が来ておりますので、次回議論していく上において、これだけは出して欲しいという資料がございましたら、こういうものが欲しいということありましたら、委員の皆さん方から何か。</p> <p>もうちょっと市町村の具体的なやり方ですね、それは必要だらうと思いますけども。</p>
委	員	<p>今、会長の仰られたですね、粗大ごみ・不燃ごみ・可燃ごみ、それぞれ分けて有料化・無料化されているんですが、一斉にされたのかどうか、それとも順番に順を追ったのか、あと、それぞれの費用ですか、エリアによる地域の。その辺りを、できるだけ人口の近いようなところ、あと立地に近いようなところは山に囲まれたようなところですけども、まあ新興のエリアとかはまた違うと思うので。比較できるような旧態依然のものと、こういう新しい新興住宅のこと、そういうものがあればありがたいんですけど。</p>
会	長	<p>それは恐らく、我々木津川の規模でイメージするには非常に重要な意味を持っていますので、もう少し仰るように、一斉に可燃ごみ・不燃ごみ・粗大ごみとやったのか、それと違うのか、料金がどのよう風に変わっているのか、それによってどれだけの効果がそれぞれの町であったのかですね、あるいは問題点はあったのか、それから場合によっては有料化を進めていく為にどう市民に理解を得たのか、というような形のものが重要な話だと思います。</p> <p>京都市ではですね、私が記憶している中では、有料化をやる為には、行政がいわゆる町内会ごとに、大体全部で2,500回ぐらいやってんじゃないですかね。それが一人でも有料化について話をしてくれという要望があれば、必ずそれに出かけていってやったということも聞いております。まあ流石に一人はいないんですけども、何人か人数が少なくてそういうことをやるという形で理解を得るということ。それから二番目には、それがどういうことの意味を持つのかということで、サンプルのごみ袋を配ったと思います。そういう形の中で、こういうことが有料化ですよという形をやった上で、有料化を実施し、そして実施をした時には行政がやはり部長以下全員出て、そのところで状況がどうなっているのかということを把握しに行つたという、かなり行政の努力というのは、随分京都の場合やっていますので、そういうことの苦労話も含めて聞けるようでしたら、ただ議会が通つて、こうやりますよという訳にはいかないということですね。</p>

		<p>それからもう一つ、大きな問題から言うと、最近はなくなったと思いますけど、京都で問題になったのは、今まで色んな袋が使われてた訳ですけども、それを先ほど言いましたように行政が一旦基金として扱うということになれば、京都市がその協力をしてくれるお店に卸したような形になるんですね。そうしないとお金が、勝手に行政が京都指定のという形で業者とやってるんだろうと、お金のやり取りはそこんとこになりますから。どれだけ外部の業者が京都市にごみ袋を持ち込んでるか分からないと。それで全部把握しなければいけないと。そうすると、その業者を競争状態にするのか、京都市が入札でやるのか。入札でやると、どうしてもその入札で負けた人たちが、今までお店に置いて、何でも良いという時の人たちからトラブルが起こる訳ですね。そういう形での業者からの反対も、まあ量が多いですから、ということがありましたんで、そういう形も京都市の中では、ちゃんと行政がそういうことも前捌きをやった上で実施をしております。だから、そういう苦労話というのは結構、自治体の中では重要な話だと。要は、早く言えば有料化というのはですね、行政がどれだけ汗をかいてやれるかということに尽きると思いますので。そういう面から言うと、かなり行政の覚悟がいるということだけは、私の関わったところの中で、有料化をしてきた自治体の中ありますので、そういうところも実態として行政の方も調べていただきたいと思います。そういう形の実態的なものを見ないと、何とも言えませんので。</p> <p>他に何か資料でよろしゅうございますか。って言うのは、人口の増え方というのは大体昭和30年代から40年代んですよ。その後は、所得の伸びがごみを増やしているんですね。今はむしろ使い捨てのごみの方がごみを増やしていますので、厚生省はいまだに人口を使ってますけども、どうも実態に合わなくなってきて。</p>
委 員		<p>例えば、ごみの有料化をしている京都市では、それと平行して雑紙の回収を強化しているという面があつて、両方の側面があつて初めて、ごみ有料化になって紙ごみを減らす努力をされたご家庭の皆さんが出す受け皿が、どのようにしていくかというのも、集団回収であるとか、雑紙のことであるとか、非常に重要になってくると思うんで、その辺のところも、有料化ともつたないプランの二つ、二本立てをきっちりやっていくということを謳っていかないと、有料化だけが浮いてしまってという風に感じます。例えば、有料化をすることによって、古紙の回収量が増えたとか、そういった情報等をいただけたら非常に分かりやすいかなという風に感じました。</p>
会 長		<p>木津川市のもつたないプランに代わるものとして、京都市では50%のごみ、これは何年という基準があるんですけど、それから50%減らすと。なぜ50%減らすかと言ったら、今ある焼却場を二基で運行していこうという形で。じゃあ、その二基が持っている能力の中で焼却できる量が50%だということを決めて、そういう形の正にビジョンですけども、もうごみは燃やさないようと。その為に二基に変えようと。一基だと修理とか色々なことがありますので、出来ませんので最低二基要ると。二基という中で交代でやっていくと形を作ることで、50%まで下げる。その50%が有料化だけじゃ、できなかつたんですね。それで重点的に50%減らす為に何が必要かということで、雑紙を集めるとか、そういう形の計画を新たに作ってということをやっています。今のところ順調には行ってるんですよ、50%が今ぎりぎりなので。もう一回、進捗状況を見ながらということを今、京都市ではやり始めている作業ですね。だから仰るように、単に有料化だけを強調してしまうとあれなんで、やはり基本計画を、もつたないプランを実施していく上において、こういう政策をやるという、そういう形の中で、これが実行できるよという形の位置付けを市民に示さないと。そういう意味では行民の輪ですね。という形で考えていただけた</p>

		<p>らと思います。まあ、そういう形から言うと、それを見ながら減量化と有料化の関係を我々も議論していきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。</p> <p>そうしたらちょっと長くなりましたがけれども、これで議論の方が終わる訳ではないんで、そういう資料を揃えていただいて、次回の日程等含めての作業を事務局の方にお返しして。よろしくお願ひします。</p> <p>委 員 すいません。もう終わりですか。他のことで聞きたいんですが。</p> <p>現在どういう状況で工事が進んでいるか、新聞にも載ってますけども、頭が悪いので把握できませんが、どのぐらいクリーンセンターは順調に行ってますか。</p> <p>事 務 局 クリーンセンターの建設状況でございますけれども、一つは敷地造成工事を25年の9月の末ぐらいか二年少しけかけていただきまして進めています。この7月には敷地造成工事が完成するということで、今最終段階に来ています。クリーンセンターの本体の工事の方ですけども、こちらの方につきましては、設計施工を一括して株式会社タクマという非常にごみ焼却施設に富んだ、老舗と言うと語弊がありますけども、非常に古いプラントメーカーと契約ができまして、今設計を進めているところでございます。予定では平成30年の9月末までの工期を取っておりますので、遅くとも平成29年度末には仮稼動して、稼働開始まで進めていくということで、あと三年少し完成まで時間を要するといった状況でございます。そして順調にいってるのかどうかということですが、今のところ計画通り進めているということです。以上でございます。</p> <p>委 員 ありがとうございました。</p> <p>事 務 局 次回につきましては、27年7月の27日、月曜日、午後1時30分ということでお願いしたいという風に考えております。また改めましてご連絡をさせていただきたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。</p>
そ の 他 特記事項		以上
署 名 欄	<p><u>木津川市廃棄物減量等推進審議会 議長</u></p> <p>_____</p>	(印)